

【MedTec Forum】 2回生のオリエンテーションに参加して

長 田 道 夫 (基礎医学系)

第2回生のオリエンテーションにクラス担任として参加した。オリエンテーションの目的は、大学での単位取得やカリキュラム、学生生活についての説明を受けることで新たな生活に速やかに馴染み、親睦を図ることで新人に散見される心理的不安定さを取り除くことにある。本年も昨年同様に親睦を図るために宿泊研修というかたちをとるかまず討論された。教官の一部には「大学生にもなってそうまでしてもらわないと友人ができないのだろうか」という意見も確かにありはしたが、結局「今時の若者は...」という偏見にも似た老婆心と何より昨年参加した学生に好評であったことで宿泊研修という日程が組まれた。学生と引率教官の疎通と親睦を滑らかにするために、昨年参加した2年生10人を募ったが、この効果は予想以上だった。

オリエンテーションは、入学式の翌日の4月8日午後から講義室で新入生全員に対して、学類長の紙屋克子教授の挨拶に始まり、教官紹介、各委員による教育カリキュラムと履修要領についての説明、学生生活についての諸注意など全般的なガイダンスを行った。さすがに緊張しているだけあってどの顔も真剣だったが、この気持ちを忘れないで欲しいと思った。その後、担任を中心としたクラス単位のオリエンテーションと全員の親睦を目的に、筑波山にバスで出かけた。バスの車中までは、全員が転校生のような些か心細い様子であったが、夕食時にはすでに騒々しいくらいに会話が弾み、若者らしく、適当に人見知りしながら壁をつくらぬ素直な態度に安心した。「今時の若者...」という先入観は瞬く間に消え、構える気持ちを持っていたのはこちらのほうであることに気づいた。

夕食後はクラス別のガイダンス、すなわち自己紹介や担任への質疑応答などを行った。その後、先輩である第1回生がゲームを企画しクラス毎にこれに興じたが、先輩たちのアップテンポで快活な進行に若者の熱気が応え、効果的に親睦がはかられたように思う。教官も大変楽しく過すことができ、またエネルギーを沢山分けて貰ったように思う。部屋割りには両専攻生が同室になる様配慮したが、親睦はその後も夜遅くまで続き、専攻の垣根もなくスタートできたようであった。私も新人の頃、他学部生徒同室の寮で過ごしたが、互いの立場を理解するのに随分役に立ったように思っている。看護と医療科学は異なった役割を持って医

療に携わる。そして相互の立場を尊重し、助け合うことが必要である。このことを体得することも、本学類の重要な教育方針であるが、この親睦が、将来のケアコロキウムでの学習や卒後のチーム医療への出発であると感じた学生がいてくれたら嬉しい。

翌朝は、参加者のほぼ全員で筑波山に登った。当日の筑波山の天気は快晴で、新緑には尚早なグレーの山の端に桜色の小手毬が散らばり、見通しのよい穏やかな眺めであった。数ある登山路のうち、つつじヶ丘から女体山へのルートは最も平易な道(ハイキングコース)とされるが、それでも受験期に筋肉を眠らせた新入生にはややハイペースで多くの新人は些か辛そうであった。このハイペースは冷や水を意識した教官によるものだったことを付け加えておく。当初心配された落後者や病人・けが人は出ず、疲れたようだが楽しい登山であった。下山も、大部分がロープウエーではなく徒歩を選択したことは、仲間ができたことと自然を愉しむゆとりの表れだったのかもしれない。筑波山登山初体験の多くの学生には、北の霊峰の有難味は筋肉痛の中に隠れてしまったようである。富士山は「登らぬ馬鹿、2度登る馬鹿」といわれるが、我が霊峰筑波山は四季を通じて何度も愉しめる山である。是非、また愉しんで頂きたい。山頂付近で集合写真を撮り、これをカバーページに載せたが澁刺とした若者らしい笑顔が眩しい。

本年のオリエンテーションは十分にその目的を果たせた。いくつか要因はあるが、研修というよりパーティーらしい自由度を認めたこと、2年生の参加、そして何より未来を感じさせる素養を持った新入生の質にあるように思う。初心忘れるべからずというが、この日の緊張感を伴った不安と学生生活への期待と、それに促された親睦の気持ちを忘れず、これからも勉学に勤しみ沢山のいい友人と共に青春を謳歌してほしい。